

## 勤務先の事務所について

会員 大野 絵里子

### 私のボス弁

私のボスは、変わった経歴を持っています。歯学部を卒業し、歯科医師の資格をとったものの、その後都庁に就職し、固定資産税課等で勤務していたようです。

そのため、よく歯科関係の相談があることがあります。高齢者に多いのはインプラントですが、高齢になりすぎるとそもそもインプラントをするのに不適切な場合もあるようです。あまりにうまくいかなかった事例ばかり聞いていると、失敗していない例があるのかなとすら思ってしまうほどです（もちろん失敗のほうが少ないとは思いますが、なにをもって失敗というかはよくわかりません）。

ただ、高齢者にとってこれから裁判のための資料を集めて訴訟をして…というようなことをするのは精神的にも難しい場合が多いですし、金銭的に余裕があるのであれば、裁判をやって大変な思いをするより治療に専念したほうがよいということもあり、相談で終わってしまうことが多いです。

また、ボスの都庁での勤務の経験からか、不動産に関する事件も多く、特に借地非訟が多いです。私は弁護士になる前は、借地の問題というのに触れたことがなかったので、100年くらい前からの借地関係というのが今も続いている事案があったりするので初めはびっくりしました。

そのような事案では、資料を集めるために国会図書館に行ったり、大昔の税金関係の書類を引っ張りだしてもらったりと、法律問題というよりは資料をどう集めるかの問題だったりします。

そのほか、投資詐欺の相談があったりもします。ただ、単に詐欺にあったというだけではなく、そのような投資をするに至った生活上の問題が背景にあったりもするようなので、難しいところです。

### 事務所の事務員さんについて

上記のような仕事をしていくなかで、事務所の事務員さんにはいつも助けられています。現在2人の事務員さん（TさんとSさん）がいるのですが、それぞれのやり方が異なり日々勉強になります。Tさんは、業務の内容から一定の職種の方と厳しいやりとりをすることが多いのですが、最終的には目的を達成することが多く、私も見習わないといけないと常々思っています。それに対して、Sさんは、いつも穏やかですが、気づかないうちに必要なことをすべてやってくれているので、新人の私には心強い存在です。

### 私の状況

以上のような事務所で、ボス弁と事務員さん2人で仕事をしていますが、まだ自分一人ですべてを決定できるような状況ではなく、日々周りに助けてもらいながら仕事をしています。また、修習生時代にお世話になった先輩弁護士にも、刑事事件などで被告人の属性から自分で判断するのが不安な場合にアドバイスをもらったりしてなんとかこなしているといったところです。

いつになったら自分で判断して行動できるようになるのかと気が遠くなることもありますが、助けてもらえる環境に感謝しながら、これからも仕事をしていきたいと思っています。